
紅紫の騎士～救世主の少女～

緋色 志輝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

紅紫の騎士と救世主の少女

【Nコード】

N0187Z

【作者名】

緋色 志輝

【あらすじ】

悲しみの記憶が巡る。

親友に巻き込まれ、異世界に来てしまった。

そこで出会ったのは……

この作品は他のサイトで一時期公開して、休止していたものです。

この度短編に書き直しました。

心が

「奪わないで、私から」

涙を零し、地面に崩れ落ちる黒い瞳の少女

「貴様は私達を裏切るんだな。」

激昂する美しくも冷厳な女性

「騙していたんだな、私達をずっと」

逞しく勇ましい男性が鋭い眼差しを向ける。

「お前は世界に仇なす敵だ。人ではない」

憎しみが籠った青年の断言はが辺りに響き渡る。

それを受け止めながら、優しく少女は愉快そうに笑う。

「こんな世界など知らない、自分勝手なこんな世界
勝手に滅びてしまえばいいのよ」

そしてゆっくりと手を振り下ろした。

泣き出す痛み

擦り傷だらけの体を引きずりながら少女は前を向いて歩く。

しかし周りはその少女に目を向ける事はない。

右手首が痛い。捻ったかな。

唇を噛み、痛みを我慢した。

もう少し、部屋に帰れば

そしてもう少しと言うところで角から来た人間に少女は突き飛ばされてしまう。

「悪い、ちつ。お前か」

その人、年の頃20歳前後の青年は尻餅をついた少女に手を伸ばして、少女だと視認して顔を嫌悪に歪める。

嫌な人間、マルスに出会った。

「邪魔だ。通路を塞ぐな。」

謝りもせず、青年マルスは去って行く。

その後ろ姿を睨んだ後、立ち上がり部屋へと戻って行く。

痛む節々を気遣いながらベッドに横になり、目をつぶり、疲れた体を休める。

張り付いたセミロングの髪をうつつとうしいと感じる。

「頑張らないと、じゃないと護れない。」

眠気が襲い掛かって来るのを我慢しながら、少女夕月颯妃は拳を握りしめる。

「少し、少し休んでから行こう。少しだ・・け」

そして静かに眠りにつく。

その瞼の隙間から透明な雫が流れたのを颯妃は知らない。

どれだけの時間が流れただろうか。

外はすでに夜の静けさに包まれていた。

「んっ・・・・私は・・」

ぼおっとする頭を振り、眠気をさます。

「少しのつもりが熟睡してしまったのね」

起き上がり、辺りを見回す。

どのくらい経ってしまったのだろう。

なるべく音を立てないように部屋の扉を開ける。

月は中天に差し掛かっている。

もうすでに深夜であることは明白だ。

仕方ない。行くのは朝にしよう。

諦めて室内に戻る。

少し冷え込む部屋に身体を震わせ、ベッドに入り込む。

しかし、布切れに近い毛布は全く颯妃を温める事はない。

白い息を吐き、丸まる。

身体中の痛みと寒さに気が遠くなって行くのが分かる。

なんかこうしていると何か胸が苦しくなる。

前にも一度あった気がする。

だが、頭の中は拒絶するように思い出す事はない。

それに何故かそれがどうでもよくなってくる。

力が段々抜けていき、抗う事なく意識を閉ざした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0187z/>

紅紫の騎士～救世主の少女～

2011年12月2日02時45分発行